

第1回(仮称)芭蕉翁記念館事業計画検討委員会《議事概要》

日時：平成25年2月8日(金)

13:30～15:30

場所：市役所第1委員会室

1、開会

【出席12人、欠席0人会議成立】

2、委員委嘱

【12人を委嘱】

3、あいさつ

【副市長あいさつ】

4、(仮称)芭蕉翁記念館事業計画検討委員会設置要綱について

【事務局説明】

5、委員長及び副委員長の選任について

【委員長に藤田真一氏・副委員長に西田誠氏を選出】

6、審議事項 これまでの経緯と今後の進め方(スケジュール等)について

【事務局説明】

[質疑]

松本委員：基本計画は読んだ。今回の検討は、従来の基本計画を認めたまま深めていくのか。もっと違った部分から考え直せというのか。スケジュールでは9月末に答申とのことだが、どこまで議論や準備ができるのか。事務局の考えを聞きたい。

事務局：基本計画をまったく白紙にするという訳ではない。基本計画をベースとして幅広い議論をいただきたい。

廣澤委員：以前の検討委員会では、副委員長を務めたが、桃青中学校跡地としたのは赤い橋をかけるという前提だった。桃青中学校跡地も含めての検討か、他の場所も含めての検討か（建設予定地についてある程度）。議論の出発点として、はじめに聞いておきたい。行政と我々がまったく違うことを考えているということがないようにすべきだろう。

委員長：桃青中跡地はもう無理なのか？ 市で別の候補地があるなら披露してほしい。

事務局：基本計画では、上野公園と桃青中学校跡地を結ぶ橋は来館者、とくに歩行者の動線として重要な位置づけとしていた。

橋ができないなら、もう桃青中学校跡地はダメとするのか、そこも協議いただきたい。市長としては複合施設の中に記念館を入れるのではなく、単独施設にしたいというのが基本的な考えである。

市街地の候補地として、他の市有地なども考慮に入れている。(成瀬平馬屋敷跡とか北部地区七地区画整理事業の保留地とか)

峠委員：土地確保について、当初の予算があったと思うが、予算内で考えたほうがいいのか？ 予算規模には制約もあるのでは？

事務局：計画では約15億円の予算としているが、桃青中学校跡地を予定地としていたため、土地の確保の予算は入っていない。用地の取得が必要となれば、その予算を計上することとなる。

中野委員：動線の確保について、橋が無理であればトンネルを掘って、ゆっくりした勾配で登れるようにしては？ エレベーターは考えられないか。

事務局：どこにトンネルを造るか想定できないが、トンネルを設置するとしても必ず出入口が必要となる。その出入口を上野城跡の史跡に造るのであれば、やはり認めてもらえないだろう。

副委員長：上野城跡と桃青中学校跡地への動線確保が連絡橋のアイデアであり、高齢の方や弱年層、また身障者の方がたをどう導くかが最大の問題となる。

宮田委員：先の第一回目の検討委員会から参加しているが、自然を大切にしたい芭蕉の世界観に桃青中学校跡地は適していた。ところが、桃青の丘幼稚園が建設されて色々事情が変わってきた。当時、市街地も考えたが、土地の取得等について無理だろうという結論だった。

事務局：橋のない桃青中学校跡地に建設が難しいのであれば、他の場所を検討することとなる。芭蕉翁生家や故郷塚、蓑虫庵など芭蕉翁関連施設との連携も考慮するのであれば、街の中でも適地があれば取得したいという考えも持っている。

委員長：私有地は、所有者の意向がからんで困難は予想されないか？

事務局：一ヶ所に絞るのか何ヶ所か候補地をあげるのかということもあるが、交渉は市で行っていき、それを委員会に諮りたい。

首藤委員：成瀬平馬屋敷跡で広さは足りるのか？

事務局：約 1,000 m²ある。地下に収蔵庫を設けるなどの活用で、基本計画の床面積は確保できるのではないかと思う。ただし駐車スペースがないことから、駅前広場の駐車場等を使うなどが考えられる。

前田委員：既存の芭蕉翁関係施設が、市内のあちこちに点在していて、それらを結ぶことのほうが大事だと思う。伊勢のおかげ横丁のように、歩くのが楽しくなるような散策コースにするのが望ましい。

廣澤委員：これまで、グランドデザインがないまま街づくりをしてきた。点を線に結びつける考えがなかった。無計画に行ってはいけない、市役所の場所も、桃青中学校跡地も、すべてフラットに考えて検討していった方がいいのか？ 市役所の丸之内は一等地であるので、丸之内周辺になるだろうが、芭蕉翁生家の近くならな
およい。

事務局：この南庁舎については、当面の間、市役所機能として使用することとしている。

峠委員：交渉してから委員会に諮るなどの時間はあるのか？

事務局：先に申し上げたとおり、必要があれば検討委員会の設置期間を延長いただくことは考えられる。

松永委員：桃青中学校跡地はもう諦めたほうが早いと思う。エスカレーター、エレベーターなどの対策は現実的に難しい。

副委員長：なぜ桃青中学校跡地がいいかという芭蕉さんのイメージに合っていたから。今までも他の候補もあったが、やはり桃青中学校跡地が一番いいということになった。しかし考えてみると、高くそびえてはどうかと考えるようになり、イメージ優先より、市民又は全国の方に来ていただくことを考え、今は、他のところがいいのではと思うようになった。

松本委員：建設地については白紙に戻したほうがいいかと思う。広くアイデアを募る、公

募がいいのではないか。そうでないときちんと民意を反映し考えたのか説得性がない。また、公募すること自体が広報発信することにつながる。

前並委員：今回の検討委員に応募して、まさか場所を一から考えるとは思っていなかった。文化庁からの意見も最初に分からなかったのか？ もう一度橋の設置について、チャレンジしてほしい。今の記念館の場所は伊賀盆地が見渡せて芭蕉さんの気持ちを考えられ、とてもいいと思うが、今の場所はダメなのか？

事務局：上野城跡では、そもそも開発行為が一切できないことになっている。

前並委員：桃青中学校跡地を何とかして使えないか。

山本委員：ずっと検討し続けて桃青中学校跡地になったのに、本当に他を考えられるのか。また私有地でも交渉し取得したいとのことだが、財政的にこんなに厳しいのに可能なのか。

委員長：みなさんの意見もだいたい出たと思う。本日の議論をふまえて、今後の委員会の基本的スタンスとして、次の2点を確認しておきたい。

①この委員会が9月末の答申を目標にしているので、可能な限りその時期を見据えて答申をとりまとめたい。ずるずると長期化するのは避けなければならない。

②今までの案をどこまでいかすのか。建設予定地のみならず、どういう形が相応しいのか。桃青中学校跡地を候補地として残しつつ、他の候補地もあわせて考えていきたい。また、最適な場所を具体的に議論したい。

具体的な案が出てきたら、その場所を委員会または部会を作ってでも見に行つて、把握したい。

公募について9月に限定すればスケジュール的にはキツイが市民参加の一手法である。建設だけではなく、どのような運営、活動とするかが長期的には大事。そのことを検討する手法とすることでどうか。

官田委員：事務局のほうで次回までに、建設地の代替案を具体的にあげてほしい。

7、その他

事務局：次回の開催は、3月28日(木)を予定します。

本日は活発な審議をありがとうございました。